

平成 27 年度

第 60 回 長野県中学校連合教科研究会

総合的な学習の時間

I	研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	趣 旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III	参加校テーマ一覧と参加者氏名・指導者氏名・・・・・・・・	1
IV	研究問題と協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・	2～3
V	本年度研究会の反省と来年度の方向・・・・・・・・	4～5
VI	あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・	5

I 研究テーマ

地域や学校の特徴を生かした総合的な学習の時間のカリキュラム開発

II 趣旨

各学校や地域の特徴を生かしながら、総合的な学習の時間が行われている。しかし、活動ばかりに目を奪われ、育てたい生徒の姿やその変容を見とる事例はそう多くはない。そこで、教師は生徒の育ちを長期的に追いつながら、どのような支援を行ったらよいか、また、生徒が示す行為やその行為の背景にある思いをどのように読み解き、評価していったらよいかを考えていくことで、生徒一人一人の学びの姿が見えてくると考える。

「探究的な学習」や「問題解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度の育成」、「自己の生き方を考える」という視点を持ちながら研究や実践を深めていきたい。

III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名

第1分科会

指導者	中島 健 先生 (中信教育事務所指導主事)	
司会者	中村 和孝 先生 (長野市立裾花中学校)	
記録者	栢木 藤雄 先生 (松本市立大野川中学校)	
世話係	下平 将揮 先生 (信州大学附属松本中学校)	
学校名	研究の要旨	
上田第六中	「生徒が互いの思いを理解し、尊重し合うための話し合い活動のあり方」	加藤 沙織
豊丘中	「共に学び合い、自己の伸びを実感することのできる子どもの育成」 ～活動後の学習の振り返りの場面から～	小島 康弘
豊科南中	「福祉と結びついた総合的な学習の時間」	牧内 自勝
仁科台中	「地域社会の人・もの・ことに主体的に働きかけることを通して、生きる力を育む総合的な学習の時間のあり方」	古屋 岳彦
山ノ内中	「『総合的な学習の時間』を中心とした教科横断的なカリキュラムで推進する ESD」	佐藤 和彦
南宮中	「自らの生き方を見つめ直しながら、将来についての生徒の興味・関心を高め、目標に向かって努力する生徒を育成するためにどうあったらいいか」	山本 幸治
裾花中	「自己の生き方についての考えを深めるキャリア教育のあり方」	中村 和孝
附属長野中	「自分の考えを発信し続ける生徒の育成」 ～「目的に応じて表現する」生徒の姿を目指して～	荻原 啓一
大野川中	「乗鞍の自然・人・文化に学ぶ中で、主体的に課題を見つけ、解決していく生徒を育てる総合的な学習の時間はどうかあったらよいか」	栢木 藤雄
附属松本中	「自らの内に問いを立て、主体的に探究していく総合的な学習の時間」	下平 将揮

IV 研究問題と協議内容

1 討議題 「総合的な学習の時間における福祉活動」

上田第六中 「自分の考えを持ち、友と関わり合いながら学ぶ姿を目指して」

豊科南中 「相手への思いを深め、かかわり合う実践力を磨く『総合的な学習の時間』」

豊丘中 「共に学び合い、自己の伸びを実感することのできる子どもの育成
～活動後の学習の振り返りの場面から～」

【質疑・討議】

- ・福祉活動導入の際の関心の持たせ方・出会わせ方
- ・交流後の活動へのつなげ方
- ・1, 2年時の福祉体験について
- ・学年間や学級間、それぞれの講座間の情報交換について
- ・交流活動前の疑似体験のあり方
- ・3年間を見通したカリキュラムについて
- ・交流活動を4回やることにより、目線や立ち位置などから変容の様子が分かりやすい。そういう生徒自身の実感が大切
- ・交流活動における施設の方からのアドバイス等

【指導者の先生のご指導】

- 高齢者福祉の活動は、やがて自分たちも歩む道であるという自分事としてもとらえたい。
- 交流先として、どうして老人ホームを選んだのか、その意味を大切にしたい。
- 手芸講座の講師の言葉、「それを貰ってうれしいの?」「それは交流ではなく、自己満足では?」によって、停滞した活動を中学生の「地域の方に返していく」という言葉から、一緒に活動していく場として、中学生自身がコーディネートしたのではないか。
- 探究的学習のサイクルを確立している。進めていく先生方がそういうサイクルの過程を理解しているからこそ、生徒にもそのサイクルのしゅくみが伝わっていくものだと思う。

2 討議題 「総合的な学習の時間におけるキャリア教育」

南宮中 「自らの生き方を見つめ直しながら、将来についての生徒の興味・関心を高め、
目的に向かって努力する生徒を育成するためにはどうあったらよいか」

裾花中 「自己の生き方についての考えを深めるキャリア教育のあり方」

【質疑・討議】

- ・職業インタビューの際の職業の種類を選び方やインタビューの内容について
- ・ふるさとへ目を向けるキャリア教育に向けて、地元の講師を生かすこと
- ・中3生徒がペンを止めずにメモしている姿が印象的な高校生との交流の場

【指導者の先生のご指導】

- キャリア教育にはそれぞれの学校のスタイルがある。そのスタイルを大切に進めながら改善をはかっていたきたい。3年の進路学習等、教師側から与える学習から生徒が欲する学びへと変えようとしている。実践が変わることは、その前に先生方の発想が変わることではないか。

3 討議題 「総合的な学習の時間における地域学習」

仁科台中 「地域社会の人・もの・ことに主体的に働きかけることを通して、生きる力を育む
総合的な学習の時間のあり方」

大野川中 「乗鞍の自然・人・文化に学ぶ中で、主体的に課題を見つけ、解決していく生徒を
育てる総合的な学習の時間はどうか」

山ノ内中 「『総合的な学習の時間』を中心とした教科横断的なカリキュラムで推進する
E S D (Education for Sustainable Development) 」

附属長野中 「自分の考えを発信し続ける生徒の育成 ～目的に応じて表現する生徒の姿を目指して～」

附属松本中 「自らの内に問いを立て、主体的に探求していく総合的な学習の時間」

※生徒たちによる活動実践の発表と実演

【質疑・討議】

- ・ 3年間の総合振り返りに生徒が綴ったもの
- ・ 地域に関するアンケートについて
- ・ 地元の方や観光客の反応
- ・ 地域交流の経緯
- ・ 小中連携について
- ・ 町議会とのかかわり
- ・ 根拠を指摘されることによって醸成される課題意識
- ・ KJ法・付箋の活用について

【指導者の先生のご指導】

- 中学校の総合的な学習の時間にとって、キーワードの1つは「地域とのつながり」
- 3年間の総合的な学習の時間の振り返りから、たとえアンケートの番号に変化はなくとも、そこに残された記述の中から地域に対する想いが、他人事となっていない様子が伺える。自分ごととなっていることを感じる。
- 取組の中に、PDCAサイクルがある。前年度の課題から出発し、生徒も先生と一緒にあって、よりよい探究的な活動となるように取り組んでいる。
- ESDは今話題となっていること。学校としてどう取り組んでいくかについて先取りして実践している。内容的に、同一地域での小中連携が必要になってくる面も多いのではないかと。
- 1年の場合、中学生として探究的な学習の基礎を学ぶときである、というとらえも大切。
- 附属松本中の生徒の実践発表では、原稿を持たずに説明する姿から、一つ一つやっていることは大変なことだが、その追究の流れには無理がないことが見て取れる。生徒たちの言葉の中に、総合的な学習の時間で学んでほしいことが、見事に語られていた。

4 「今後の総合的な学習の時間の展望」について指導者の先生のご指導

- 全国学力学習状況調査の質問紙：「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という問いに対して、生徒の認識の点で長野県は全国との差が見られる。
- PISA2003の調査では、日本の学力低下が見られたが、PISA2009以降見事にV字回復したことについて、総合的な学習の時間の取組が影響しているという分析もある。また、全国学力学習状況調査でも、各教科の内容の定着度と相関関係があることも指摘されている。総合的な学習の時間でやってきたことの成果を、今後も是非大切にしていきたい。
- 生徒を真ん中にして、INPUTとOUTPUTを考えたとき、その間で何が起きているかを考えたい。「先生の話が聞いているときと、話し合いをしているときで、頭の中はどう違うか？」という問いに、中学生は「話を聞いているときは話の内容を理解しようとしている。話し合いをしているときは考えをつくり出そうとしている」と見事に答えている。また、「ウェビングマップで使用している情報はどこから得たのか？」という問いに対しても、「自分の知識、友の発言、資料の3つから」と情報の出所を適切に答えている。
- 教育課程企画特別部会論点整理は、2030年の社会と、そして更にその先のゆたかな未来を築くために、教育課程を通じて初等中等教育が果たすべき役割を示すことを意図しているが、総合的な学習の時間の重要性が語られている。
- 今後、アクティブラーニングとカリキュラムマネジメントの視点が重要になってくる。各学校で取り組みを進めるときに、その真ん中に総合的な学習の時間を置くことが有効ではないか。

(文責 松本市立大野川中学校 栢木藤雄)

V 本年度の反省と来年度の方向

◎本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・よい (3名) ・とても取り組みやすかった。 ・まとめやすかった。 ・地域・学校の特色を生かす方向のカリキュラムでよいと思う。 ・本校が取り組んでいる内容に迫ったテーマでこれからの中学校にとってとても大切な研究テーマである。
○研究の主な内容と研究の成果について	<ul style="list-style-type: none"> ・よい ・カリキュラム開発を通して、本校でも3年間を見通した授業を考えることができた。 ・本校においては、本年度は活動をするのに精一杯で研究になっていない現状がある。 ・各校でよりよいカリキュラムにするために、自己の生き方を考えるように課題を基に研究を進めていた。 ・とても参考になり、勉強になった。 ・総合学習の中で福祉だけでなく、キャリア教育やその他学校で取り組まれている実践をお聞きし、大変勉強になった。学校の中で一から計画して取り組まれている例が幾つかあり、つなげ方のヒントをもらえた。
○研究の方法や経過について	<ul style="list-style-type: none"> ・よい ・総合を中心とするクロスカリキュラムをつくっている途中である。なかなか思うように進んでいない。
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のスタートから時間が伸びてしまい申し訳なかった。発表の中でビデオを流したかったのでどうしても20分に収まりきれなかった。もう少し時間に余裕があると有難い。 ・発表時間にばらつきがあり、実際のタイムテーブルと大幅にずれていた。全県の広い範囲から集まり、行っている会なので、計画通りに進行していく方向がよいと感じた。
○研究集録等の Web ページ掲載について	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ掲載で情報を確実に確認することができた。 ・分かりやすくよかった。 ・いち早く具体的な情報が届き有難かった。
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・メールでのやり取りがスムーズでよかった。 ・情報がすぐに分かりやすく入るので、メールは有難い。 ・丁寧に何度も連絡メールをいただき、とても有難かった。 ・対応が丁寧でよかった。 ・メールの活用はとてもよいと思う。レポートも提出しやすい。 ・生徒からの気持ちの良い挨拶、整えられた環境、会場で、互いの実践について意見交換をさせていただき、多くのことを学ぶことができた。 ・附属中生徒たちの研究発表や試食会があり、このような形式に感動した。できれば来年度も継続してほしい形式である。 ・附属中2年生がこれまでの学びを発表してくれて有難かった。やはり生徒の生の声や姿は何よりも説得力があった。来年も可能であればお願いしたい。 ・生徒の活動、発表が見れたのがとてもよかった。自分たちで考え、生き生き活動している姿がとても羨ましかった。レベルが異なるが、交流をお願いしたい。 ・附属中の発表がとても立派でびっくりした。やってきたことが自分のものになっていることが伝わってきた。

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・希望として「探求的な学習」の在り方を盛り込むと有難い。 ・本年度と同じテーマでよい。(5名)
------------	--

○来年度の研究の趣旨	・3年間を通してのカリキュラムづくりと、各教科をそこにどう迫っていくか。
○来年度の研究の方法	・PDCAを大切にしたい ・つけたい力を明確にしてカリキュラムをつくっていききたい。
○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・他校の実践した内容、悩み、成果が分かりやすくとても参考になった。 ・とても中身の濃いレポートが今回多かったこともあり、分科会を分けてもよかったと思うが、1枚レポートのような形では、1つの分科会になるかとも思う。 ・来年度は2分科会の方向で。1分科会5校以上そろえば問題ない。 ・もう少し参加者が増えるとよい。 ・福祉・キャリア教育・地域などの分科会がつかれるくらい。 ・総合的な学習の時間は人数が少ない分科会だったが、それでもレポート発表で時間を押してしまったので、せっかくのレポートを十分に扱える人数や時間ができるとよい。 ・研究に沿ってレポートをまとめることに苦勞した。実践を持ち寄るぐらいの楽な形での参加であると参加しやすいと感じた。

VI あとがき

進路指導や個別懇談を控えた11月20日、学期末の忙しい時期ではありましたが、県下各地から、総合的な学習の時間を生徒主体の時間にされようと実践を重ねられている意欲あふれる先生方にお集まりいただきましたことに感謝申し上げます。当日の会も司会の先生方のご尽力と、参会者の先生方のおかげで、終日、熱い意見交換がなされました。実り多い一日となったのも、先生方の実践の確かさをおいて他にありません。本当にありがとうございました。

そして、指導者の中島健先生より、すべてのレポートに対して、温かく、的確なご指導をいただきましたこと、司会者の中村和孝先生には、綿密な進行計画を立てていただき、研究協議の場がより深まったことに厚く感謝申し上げます。また、記録者の栢木藤雄先生には、記録を取りながらも、熱心に審議にも参加いただきました。感謝の気持ちでいっぱいあります。

来年度も県下各地の先生方の熱い思いや、生徒とともに歩み、創りあげた実践に出会えることが今から待ち遠しい思いです。参会の先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼といたします。ありがとうございました。

委員 長 下平 将揮
副委員 長 荻原 啓一